

墨翔

発行 兵庫県水墨画協会
理事長 盛 静山
神戸市北区筑紫が丘
515-18
井上 宣子 方
TEL&FAX
078(583)2793

祝創立十周年記念展

盛 静山

東洋文化の中で墨を主とした芸術は、2千年以前から中国と関連を持ち今日まで続いてきました。水墨画は生活の中に密着しながら今日では老若男女に親しまれ多種多様の形で展覧会が開かれています。この様な中で本会の展覧会は流派・組織・門弟に関係なく一同に会して誰でも出品できます。

展示作品を鑑賞しながら技術の向上と



芸術文化を高めることを主旨として兵庫県水墨画協会を設立し十年続けて参りました。会員の数も年々多くなり平成26年5月28日から5日間原田の森ギャラリー大展示室にて全作品三百点を展示し開催しました。天候に恵まれ席画もあり初日は三百人以上の来場者があり、最終日迄連日の鑑賞者でにぎわいました。

役員の全紙サイズの作品、古典的な軸装作品、会員と公募作品とも山水画・花鳥画・南



画・墨彩画・抽象的な作品とバラエティに富んだ個性のある作品が展示され、佳作の多いのに喜びを感じました。又子供達の作品も多く出品され純粋な作品に心を感じるものがあります。

6月30日の授賞式と祝賀パーティーは新神戸駅前の「ANAクラウンプラザ神戸」で兵庫県・神戸市の代表者、県市の芸術団体の各代表者、神戸新聞社等の多くの来賓者の祝辞をいただき、パーティーも和やかに盛大に終了する事が出来ました。此の十周年記念を一区切りとして新たに会員との和を大切にして、輪を日本全土に広げたいと思っています。

水墨画芸術を世界に発信

兵庫県水墨画協会
顧問 杉谷 隆志

今年の春、空海ゆかりの高野山と紀伊半島を一周して和歌山を巡って神戸で兵庫県水墨画協会の十周年記念展を拝観し、良い刺激を受けました。協会の皆様に再会できましたのも嬉しいかぎりでした。

私は現在神奈川県に住んでいますが、生まれは神戸市須磨区なので兵庫県水墨画協会には親近感があり、その成果に期待しています。

盛静山先生には私の率いる墨美会の芸術顧問をお願いしていますが、日本文化独特の芸術として水墨芸術を旺盛にし、世界に発信していく必要があります。東西の愛好者が相和して研鑽向上させていくことを切望してやみません。

私達墨美会展は、毎年春、上野の都美術館で盛大に開催しています。関東方面にお知り合いのある方は、ぜひ出品されて関東の友人、知人にも観ていただき又墨美会の水墨画家達との親睦も深めたいと思っておりますので来春のご参加をお待ちしております。

あつごうの十年間

このうえ のぶこ

毎年五月のゴールデンウィークの頃より、事務局は、大忙しになる。最も気になるのが出品点数、会場をうめるだけの作品が集まるかどうか、ヒヤヒヤの連続である。今まで原田の森の一階の会場で開催していたが、作品数が多くなり、キャプションも貼れない、うれしい悲鳴と共に、たくさんのおしゃりも受けた。今年も十周年ということもあり、思い切って二階の大

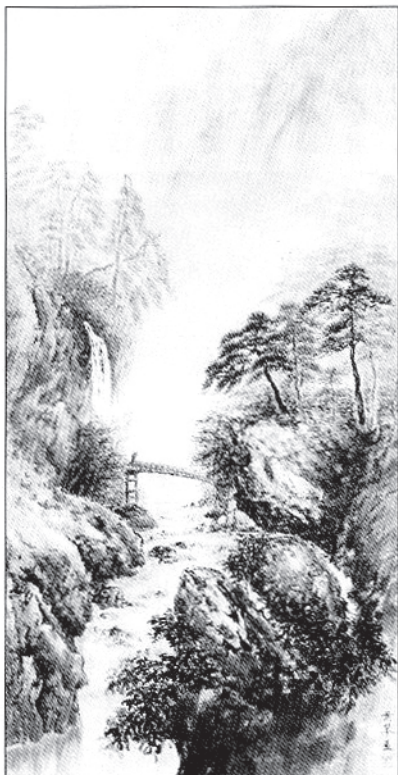
展示場を申し込んだ。が、近づくにつれ、はたして集まるだろうか。ガラガラの状態になるのではないかと、毎日が続いた。十周年ということでは、全紙の額と半切の軸、評議員にはF20号と規定した。皆さんからはブーイングもあったが、展示してみると、サイズが揃ったこともあり、壮観であった。見に来られた方からも、とても見やすかった。整然としてきれいだ。壁面を工夫して会場を広くし、ソファをあちこちに置いたことも功を奏した。今年も巡回展として、三木で開催することに、はじめて巡回展と銘うったが、

どうだろうと不安がつきまとう。巡回展とするからは、次はどこに巡るの？の問いも。次々に新しい試みが出て来る。十年前では思いもよらないことであった。色々の経験を、少しずつ会の姿になってきた。皆さんのご協力のたまものである。墨の大好きな若い世代が育ち、ジュニアが大人の部門に出品してくれることを望み、楽しみにこれから十年のスタートである。

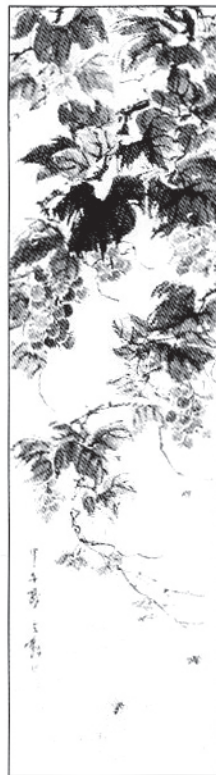




神戸市長賞 柏原 月山



兵庫県水墨画協会大賞 梅田 葉翠



兵庫県知事賞 宮田 芳数

審査員の講評

女子美術大学

教授 橋本 弘安

兵庫県水墨画協会展の作品は様々な様式、技法が集まり審査に苦勞いたしました。

私は、大学で日本画の指導をして居りますが、東洋画ということでは、水墨画も含め振興の重要性を近年特に感じて居ります。

どの作品も墨と紙のかかわり、墨の濃淡、色の美しさに工夫をこらした力作が揃っていました。これからの秀作に期待して居ります。

広島県立美術館

館長 越智 裕二郎

本年は一段と作品がバラエティに富み、奥行きを感じさせる絵が増えたと感じた。奥行きとは、その絵の奥に、この絵の成立までに沢山の絵を描いてきたそれらの絵が見えるということである。又、山水や花鳥を描く方がもう一木意欲的な新しい題材に挑まれるなど、本会は個々の作品に力が漲ってい

るのを感じる。それらの作品には、精緻な絵あり、南画風の絵あり、しかし現代にあつて墨と筆の表現とは何かということ、それなりに結論を出し、自信をもって画を展開していることが見る者にも伝わってくるのである。

全国水墨画美術協会

副会長 陳 允陸

伝統的な手法で描いた作品から現代的な作風まで、幅広く表現されています。

出品作品を拝見して感じたこと、一つは作品で構図をもっと大事にして欲しいです。構図は絵の基本です。特に水墨画では構図が重要です。描く前によく考えて作成して欲しいです。二つ目は画面にたくさん描かないように省略して描いて欲しいです。絵の中心をはっきりして、メリハリがある作品にして欲しいです。三つ目は、墨色をもっと大事にして、あまり濃く描かないほうが良いと思います。「惜墨如金」の言葉がありますが、墨を大切にし、よく考えて使って淡墨をうまく表現したほうがいいです。

受賞の喜びの言葉

神戸市 梅田 葉翠

十周年という記念すべき節目に大賞をいただき大変ありがたく光栄に思います。「墨に五彩あり」と申しますが、やっと墨の性格を理解できる様になったと感じます。これからこの難解な墨をどんな風に使おうかと心躍らせております。このすばらしい機会を与えてくださった協会の諸先生方に感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

三木市 宮田 芳数

ふとした師匠との出会いから五十の手習いの水墨画を始め、仕事の傍ら余暇に書画を楽しんでおります。今後共健康に留意しつつ、精進していきたく思います。よろしくお願い申し上げます。

川西市 柏原 月山

この日を機に、更なる精進をさせて頂き、水墨画協会の発展に寄与する事を誓い、尚前人達から伝

兵庫県水墨画協会 秀作選抜展 in 三木

宮田 芳数

兵庫県水墨画協会創立十周年記念として公募展での秀作・選抜作品を初の巡回展として、三木市役所内の「みつきいホール」で6月12日(木)午後1時より17日(火)午後3時まで、三木市と(公財)

兵庫県芸術文化協会の後援、三木市教育委員会の協催で開催されました。衆議院議員、県会議員、三木市長も御来場いただきました。

「公募展を見て感動したので再度見たかった」とか「公募展に行けなかったので巡回展に来ました」とか「神戸は遠いが三木なら」と、遠くは福井県・奈良県からの来場者があり、会期中

「筆文字」手書きの文字が見直されている。墨と筆と紙によってその美しさが形成されている。墨絵は「筆文字」と同じで、濃さを出すために押さえつつ書き、筆を押さえず運筆する事で淡くやさしい強い線がでてくる。下敷きを使用して書く濃く深く筆圧が強くなる。なしで書く適切な軟らかな線と点、筆跡の出にくい絵となる。墨にあそばれて四苦八苦しながら書く、私なりの水墨画である。



展覧会場でアンケートをいただきました

◆◆ アンケートのまとめ ◆◆

- ・50歳以上の方の回答を多くいただきました。
- ・画題は山水・花が好まれています。
- ・表装は軸・額とも同じくらい好まれています。
- ・知人からという回答が多かったです。
- ・三木展では、新聞という回答も多かったです。
- ・原田の森は神戸・阪神・大阪の方が多数でした。
- ・三木展は圧倒的に三木の方が多数でした。

◆◆ アンケートでのご意見 ◆◆

「毎年楽しみにしています。」「次回も楽しみにしています。」「すばらしい。」「感動しました。」「勉強になりました。」「参考になりました。」「という、うれしいご意見を沢山いただきました。

また、「アンケートをとるなら、回収箱の傍にペンを用意して」「PR不足ではないですか」「審査員の批評と作品を結びつけて見たい。」「作者のお話を聞きたかった。」というご意見をいただきました。次回からの参考にし、改善できるところはしていきたいと思います。

「作品を撮影したい。」というご意見も複数いただいておりますが、これについては、他の方の迷惑ともなりますので、今後も「撮影は禁止」といたします。図録を販売致しておりますので、それをお求めください。以上、アンケートにご協力ありがとうございました。次回もよろしく願いいたします。

杉野 柏蓉

の来場者は、合計六百名を超え、水墨画・墨彩画のさまざまな描き方や流派に見入っていました。

アンケートも多数書いていただきました。

きましたので、その内容は、来年の展覧会に反映したく思っています。

今回の巡回展は計画中です。

柳井 卓子

会計を担当して

高橋 昌子

昨年吉織先生がご逝去され、協会の会計を担当することとなり、

微力ながら役に立てればとお引き受け致しました。

会員の皆様には、年会費・出品料の納入等で協会の運営にご協力をいただきありがとうございます。

会計を担当して会の発足時より十周年を迎えるまでの諸先輩のご苦勞がよくわかりました。今後とも納めていただいた会費の有効利用・

会員数の増加に努め、会のさらなる発展のため、皆様のより一層のご協力をお願い致します。

編集後記

今回からは、編集委員会を発足し、年に1回「墨翔」を発行する予定です。今後、会員の皆様にも原稿をお願いすると思えます。その時は、快くご協力くださるようお願いいたします。

編集委員のメンバーを紹介します。

宮田 芳数 ・ 井上謙二郎

杉野 柏蓉 ・ 柳井 卓子

小谷 鳴宝 ・ 高橋 昌子

*写真提供は 水野 一夫

及び理事の皆様です。

